

第六十五日目

師 範：下関条約で清から奪った遼東半島は、ロシア・ドイツ・フランスの三国が干渉してきて、清に返すことになりました。



ところが、ロシアときたら、その遼東半島の旅順や大連という港や町を長期に借りてしまいました。

日本はロシアを警戒していました。ロシアが東アジアに進出してくることは、イギリスにとっても利権をおびやかされるものなのです。

イギリスは、日本に手をのばして、ロシアと対立する壁の役割を果たさせようと考えました。

日本とイギリスは利害が一致したので、日英同盟を結びました。世界の大国イギリスのうしろだてを得た日本は、大変心強く思いました。

1902年 日英同盟を結ぶ。

この年を覚えましょう。

コン太：お母さんは



「日暮れに結ぶ日英同盟」

と覚えたそうです。

「ひ」は1、「く」は9、「れ」は0、「に」は2ですね。

ぼくは考えました。

「干渉の一句をにらんで日英同盟」

「いっく」は19、「を」は0、「に」は2です。

ペン太：それでは



「同盟の 敵引く例に ロシアあり」

「ひく」は19、「れい」は0、「に」は2ですね。

日英同盟は、日英共同の敵をロシアとした同盟ですから。

師 範：干渉は、三国干渉をさしていますね。

前の説明のようにロシア警戒の動きですね。

その同盟のねらいを言ったのがペン太君の作品ですね。

それぞれにねらいがあってうまく表現されています。